

文化祭講評

前日にI階体育館の展示を見学しました。力作が揃った掲示物を見て、二中での文化祭がとても楽しみになりました。

オープニング、吹奏楽部の「栄光の架橋」で気分が盛り上がり、1年生のSDGsの発表が始まりました。それぞれの部門の発表はまさに未来への「架橋」となるようなものばかりでした。SDGsの一旦の目標は2030年です。1年生の皆さんはその頃、何をしているのでしょうか。年齢で言えば二十歳。きっと、多くの方が社会に出る準備で、あるいは社会に出たばかりで色々と心を悩ませているのではないのでしょうか。そんな皆さんへのヒントになるのが、2年生の発表でしたね。

2年生の発表はタクシードライバー、農家、営業、プロデューサーなど様々な仕事にスポットを当てたものでした。どの仕事も私たちの社会を支えていることが発表かひしひしと伝わってきました。どれか一つでもなくなれば、私たちの生活に影響が出てしまうのが「仕事」というものなのでしょう。今皆さんはどんな仕事をしたいと思っているのでしょうか。あんなことをしたい、こんなことをしたいと、多くの夢を持っていることと思います。ということを考えていると、演劇部が流れ星を見つけ、願い事を3回唱えていました。部屋の中だったので、願い事が叶うかどうか、怪しいところですが……。そう、今皆さんが持っている夢が実現するかどうか、不安になることもあると思います。そんな不安をどう乗り越えていけばいいか、それを教えてくれたのが3年生の発表、「絆」でしたね。

3年生の学年劇は人生の困難にどう立ち向かえばいいかを示してくれました。それは、正直に気持ちをぶつけ合うことであったり、相手の気持ちを慮ることであったり、いつも自分が独りではない、誰か支えてくれる仲間がいるということでした。3年生の国語の教科書にある孔子の言葉、「徳は孤ならず必ず隣有り」を思い出させますね。これからの中学校生活をどう過ごせばいいのか、1、2年生にとっても大きな示唆を与えることができたのではないのでしょうか。同時に、3年生にとってもこれから迫り来る進路選択の大きな波をどうやって乗り越えていくのか、自分たちでも改めて気づけたことでしょう。

今、皆さんの視線はどこを見えていますか。週末、友達と遊ぶことでしょうか。それともクラブの試合のこと？ 二週間後の中間試験？ 視線の先には様々なものが見えていることでしょうか、この人権文化祭をきっかけにそれをもう少し延ばしてみませんか。先ほども述べた通り、SDGsの一旦の期限は2030年です。その時に、皆さんはどんなことをしたいですか？ どんな人間でありたいですか？ 2050年ではどうですか？ 2045年にはシンギュラリティ(AIの知能が人間を逆転する現象)が起こると提唱している人もいます。今後50年で今の仕事の半分以上がAIにとって変わられるとも言われています。そんな未来をどう生きたいか、そのために今できることはどんなことか、皆さん一人ひとりが自分自身の未来を考え、今を生きることに繋がる今年の人権文化祭であってほしいと思います。